

# SKY コーナー

## 「関西ブロックSKYフォーラム2022」開催

～「きっちり工事運動」の向上を目指して～

情報通信エンジニアリング協会 関西支部

### はじめに

2022年10月13日、関西支部による「関西ブロックSKYフォーラム2022」がITEA西日本事務所（大阪市）を主会場とし、リモートとリアルハイブリッドで開催されました。本フォーラムは会員各社が日常業務の中で安全性・効率性を目指し積極的に実施している「SKY運動」の成果を発表し、啓発・水平展開を図ることを目的としております。

開催にあたり、情報通信エンジニアリング協会 遠竹関西支部長（写真1）より、「本日はコロナ禍の中、3回目のリモートを組み合わせたやり方となっています。1回目がりモートとリアルを組み合わせ、昨年は完全にリモートで行いましたが、また今回はコロナ禍の1年目に戻ってのハイブリッドでの開催となっております。世の中的にはコロナも収まってきましたので、ぜひ来年はま

た完全にリアルでの実施も含め検討していきたいと思っております。

この「SKY活動」は、昭和58年、大阪市内で土砂の崩壊事故による死亡事故があり、これを契機に当時の電電公社の皆様と我々通信建設会社のメンバーが千人程度集まって小集団活動を始め発表会をしたことがきっかけとなったと聞いています。その後、昭和63年からSKY運動と銘打ってスタートして今回は34回目を迎えております。SKY活動は（S）が創造、（K）が改善、（Y）が躍進という言葉の略でございます。今年も各社並びにNTTの皆様から発表いただくこととなっております。楽しみにしております。

本日ここで発表を聞いて終わりではなく、これをぜひ皆さんの職場へ持って帰り、それを水平展開する、また現場に展開する、それが非常に大事になってくると思いますのでよろしく願いいたします。」との挨拶がありました。

続いてNTT西日本 関西支店 佐尾設備部長様（写真2：リモート接続）より、「本日は関西ブロックSKYフォーラム2022が開催されることにお喜びを申し上げますとともにお招きいただきまして誠にありがとうございます。また、平素より弊社の事業に多大なるご理解、ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

2022年度既に下期がスタートしているところではございますが、まずは昨年11月会計検査員の監査における電柱維持管理業務に対して改善指導を受けました。電気通信サービスを提供する会社として、社会不安を与えてしまい通信キャリアとしての責務と義務を再度見つめ直す大事な機会となりました。皆様には置かれましては、緊急対応として「関西管内」約4万本もの電柱の再点検、結果のDB登録を短期間で実施していただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。引き続き、皆様とともに本件を風化させることなく安心安全なサービスを提供できるよう努めてまいります。

また、今年も台風11号から15号まで複数の台風により西日本エリアで多大な被害を受けました。特に九州ブロック沖縄、鹿児島、宮崎、長崎への支援および支援期間中の関西を守っていただいた皆様、本当にあ



写真1 ITEA・関西支部  
遠竹支部長 開会挨拶

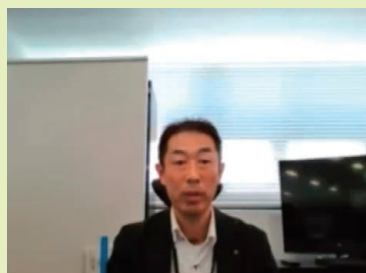


写真2 NTT西日本 関西支店  
佐尾設備部長様 来賓ご挨拶

りがございました。

皆様のご協力により九州の故障件数は今週中には平時の約3倍を下回る予定となっています。

さて、弊社に置きましては7月にDエリアにおけるアクセス保守直営化を開始しました。

ここにいたるまでに各通建会社様でのOJTによる引受けありがとうございました。また、一部支障移転業務のOJTやアクセス系保守でご支援いただいております。引き続きもご支援をお願いするとともに弊社といたしましても早く自立できるように取り組んでまいりたいと思います。さらに、将来という点では2023年G7貿易大臣会合の大阪府堺市での開催決定、NTT西日本本社ビル跡地の再開発の開始、さらには夢洲での万博開催に向けた基盤設備の工事の開始、と大きなプロジェクトの具現化が始まりました。通信建設会社様並びに関係会社様と一緒に

成功させていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願い致します。これらの施策を進めるにあたっては皆様の安全と健康が土台だと思っています。そこで2022年度の人身事故の状況をお話させていただきますと、西日本エリアでは14件という多くの人身事故が発生し、関西エリアでは3件発生しています。また、健康につきましては、コロナの第7波、と平均気温が過去2番目という猛暑により皆様に多大なご負担をおかけしていると思います。そのような環境下ではございますが、事故については再発防止の取組みをさらに進め、今一度皆さまと基本動作の徹底の意識を高めてまいりたいと思います。本フォーラムでは、日常業務の中で安全性、効率性を目指し積極的に実施しているSKY運動の成果を発表し啓発、水平展開を図ることを目的に開催されていると聞いております。本日は安全を始めと

した、各種改善またはDX等に関する取組みが発表されますので、ぜひともに聞かせていただき我々も持ち帰って参考とさせていただきたいと思っています。最後となりますが、SKYフォーラムを通じて情報通信エンジニアリング協会様、また、通信建設会社様のますますのご発展を祈念いたします。」とのご挨拶をいただいた後、本フォーラムが開会されました。

## SKY提案表彰

表1 2021年度各社別評価件数 (単位:ポイント)

ミライト・テクノロジーズ	エクシオグループ	日本電通	ミライト	日本コムシス	合計
3.2	3.4	0	1.1	0.1	7.8

### 【算出方法】

- ① 2021年4月から2022年3月末までの提案件数
- ② 2022年9月末(今回)までのNTT西日本様による回答・評価ポイント

表1の評価基準に基づき、年間最も評価ポイントを獲得した会社に対して「年間提案優良会社表彰」を行いました。集計結果により、評価件数が3.4ポイント(①提案件数:3件、②回答・評価:0.4ポイント)のエクシオグループ(株)が表彰され、遠竹支部長より感謝状と記念品が授与されました(表1・写真3)。

## 安全運動表彰

当支部安全パトロールにおいて、安全の鉄則を遵守するとともに、安全に対する取組み活動が他の模範となり、極めて優れているとして日本コムシス(株)所属の新星コムネット(株)吉田 誠班に遠竹支部長より表彰状と記念品が授与されました(写真4)。



写真3 SKY提案表彰  
エクシオグループ(株)

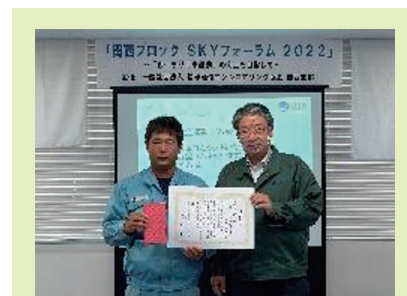


写真4 安全運動表彰  
新星コムネット(株) 吉田 誠班

## SKY提案発表

各社でのSKY活動として最も優秀であったものについて、1テーマ選出し発表を行うとともに、NTT西日本グループ様代表としてNTTフィールドテクノ 大阪設備部様からも発表を行っていただきました(写真5～10・表2)。

NTTフィールドテクノ 大阪設備部の発表内容は、『交通事故根絶に向けた取り組み』というテーマで発表されました。

テーマ選定は、交通事故発生件数が2020年度7件から2021年度3件へ減少しているものの根絶には至っていない現状を踏まえ選定を実施しました。

現在の取組みではSDカード点検を実施していますが、「点検稼働がかかる」「即効性に欠ける」という課題があります。そこで点検周期の見直しやドライブドクターを導入しリアルタイム音声ガイダンスやGセンサー機能による加速度計測により即時確認や適格な安全指導を実施しました。

今後の課題としては、不安全運転(行動)の可視化を重点として取り組み、ドライブドクターのデータベースでの一元管理を実施し安全意識の醸成を図って行きたいという内容でした。

その他の発表につきましても、新しい材料の提案、地域に寄り添った製品開発、安全を優先した工法・方法の提案など素晴らしい内容で施策の水平展開や今後の積極的なSKY活動への刺激にもなりました。

## おわりに

発表終了後、遠竹支部長より発表各社の代表者に記念品が贈呈され



写真5 司会  
日本電通(株) 小泉 佳子氏



写真6  
発表模様1 日本電通(株)



写真7  
発表模様2 エクシオグループ(株)



写真8  
発表模様3 (株)ミライト・ワン



写真9  
発表模様4 日本コムシス(株)



写真10  
発表模様5 (株)NTTフィールドテクノ

表2 発表テーマ一覧

発表テーマ	発表会社名	発表者
1. 『事故からの再出発』	日本電通株式会社	古田 泰洋
2. 『新しい土留材 (Jスマートウォール) を使用した立抗掘削の作業性向上について』	エクシオグループ株式会社	松本 貴文
3. 『交流切替用BOXの作成～より安全な作業の提案をお客様に～』	株式会社ミライト・ワン	中北 祥記
4. 『公衆電話BOX工事におけるカイゼン～Hi-線sカバーの開発～』	日本コムシス株式会社	阪本 裕規
5. 『交通事故根絶に向けた取り組み』	株式会社NTTフィールドテクノ 大阪設備部	戸川 悠輔

(写真11)、エクシオグループ(株) 松本 貴文リーダーの発声で関西支部の安全スローガン「まず安全 工夫を活かそう 知恵と技 ヨシ!!!」

を全員で唱和(写真12)した後、主催者を代表してITEA 山下常務より「本日は関西ブロックSKYフォーラム2022に多くの方々にご



参加いただきましてありがとうございました。NTT西日本グループの皆様、関西エリアの通信建設会社の皆様、そして運営するスタッフの皆様のご協力によって無事開催することができました。改めまして皆様に厚く御礼申し上げます。

この1年間も多くのSKY提案をいただきました。ありがとうございます。

本日、各社の代表者の皆様から発表をいただきましたが、その中で過去の重大事故の教訓から二度と仲間が同じような事故を発生させないために取組みをしていただいた事例がありました。

昨年度西日本エリアでは人身事故の総数は減少したものの4件の死亡事故を発生させてしまうという過去に類をみない危機的な状況でありました。全国で人身事故根絶に向けて、今取り組んでいる最中ではありますが、今年度に入り既に昨年度と同規模の14件の人身事故、そしてその中には静岡において交通誘導員の方が尊い命を失うこととなる死亡事故が既に発生しております。

今年度から現場の見守りの一環でネットワークカメラの導入が始まっています。現場のみならずデスクからの声かけや安全作業を最優先する

行動が定着化していくことを期待しています。

他の発表では施工性や作業品質を向上させるための新しい材料の提案、地域に寄り添った製品開発、安全を優先した工法・作業方法の提案、こういった数多くのSKY活動らしい水平展開可能なテーマがありました。そしてNTTフィールドテクノロジーからは交通事故防止という現場が抱えている課題に対して着目した地に足がついた取組みをご紹介いただきました。

また、本日、この1年間の最優秀安全作業班として受賞されました新星コムネット社の吉田班の皆様おめでとうございます。安全は日々の積み重ねが大事だと感じています。どこに危険が潜んでいるのか、現場では場所によってその環境によって全く異なるので定型のKY、指差し呼称では意味がありません。

皆さんの目線で危険を予知して命を守る行動を最優先していただきましたと思います。

結びになりますが、1986年から30年以上にわたって続けてきているこのSKY活動がこのように現場発で共に働く仲間のための成果に結びつき、昨年もこの場で申しましたけ

れども、既存業務に磨きをかけ、持続可能な運営体制の確立を目指し通信建設業界全体として若者が「働きたい、働きたい」と思うような業務に仕上げ、業界全体の魅力度向上につなげていければと思います。

以上をもちまして簡単ではございますが、閉会の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。」との挨拶があり閉会しました（写真13）。

今回の大会は、リモート接続により約250カ所から参加いただきましたが、無事終了することができました（表3）。

視聴者アンケートでは、今回のハイブリッド開催およびポータルサイトによる開催後1カ月の視聴に対し「若干聞き取りにくい部分があったものの概ね良好であった。」「自分のタイミングで閲覧でき効率的であった」との多くのコメントをいただきました。また「コロナ関係なくリモート（オンライン）環境は効率性、柔軟性の面でも今後も継続すべきよい実施（開催）方法だと思っています。」のご意見もいただいておりますので、今後の新たなスタイル開催に向けての検討をしていくことといたします。

大変お忙しい中、本大会にご臨席いただきましたご来賓・NTTグループの皆様にご感謝申し上げますとともに、大会の諸準備、運営にご協力いただきました関係各位に対して心から厚く御礼申し上げます。

表3 大会概要

大会日時	2022年10月13日9:30~11:30	
開催場所	ITEA西日本事務所（大阪市）＜各拠点リモート接続＞	
参加者 （リモート接続）	・NTTグループ各社様 ・通建各社（グループ会社含む）	約250カ所

